

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	8	学校名	静岡県立沼津特別支援学校	校長名	青木 暁乃
------	---	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	人権教育年間指導計画の着実な遂行	職員が、人権育成年間指導計画を着実に遂行している。	職員は、毎月の人権テーマを意識しながら児童生徒、職員に対応するとともに、取組について振り返ることができた。	B	毎月、人権テーマを職員室に掲示したり、朝の打合せで確認したりした。 チェックシート等を活用しながら、日常的に意識できる方法を検討していく必要がある。
		児童生徒や保護者が「大切にされている」と感じている。	職員は、日々児童生徒に、人権を尊重した対応ができた。	B	一部の職員で児童生徒に対する否定的な言葉掛けが見られ、徹底できなかった。 意識が薄かった部分や曖昧な部分を振り返り、人権に関する研修を重ねていく必要がある。
		分かりやすく、居心地が良いように教育環境が整備されている。	職員は教室内の教材や教具、掲示物等の配置を整理し、学習環境を整えることができた。	A	確実な安全点検で教室環境を整えることができた。 荷物の落下防止の観点から、高い所に荷物を置くことがないように呼びかけていく。
	命を守る、体制強化と行動力の育成	未然防止の観点から点検と対応が常に行われている。	職員は、けがや事故等の未然防止の観点から、定期的な安全点検や授業準備を実施し、適時対応することができた。	A	毎月の安全点検や授業前の安全確認を行った。 改善可能な項目については、事務の施設担当と相談しながら迅速に対応した。 けがや事故の未然防止の観点から事故報告書やヒヤリハットは、速やかに共有していく。
		食育の推進と食の安全が確保されている。	職員は、食育の観点（季節・食材・衛生・マナー・感謝・フードロス等）を意識し、日々の指導に取り組むことができた。	A	季節や食材について話題にしたり、手洗いやうがい徹底したりしながら指導できた。 また、異物混入対応マニュアルを見直した。 安全で安心な食事指導を継続していく。

		保護者が福祉避難所指定とその在り方について説明を受けている。	職員は、PTA 総会や防災だより等を通じて福祉避難所についての情報を保護者に発信することができた。	B	PTA総会やお便り等を通じて福祉避難所に関する情報を発信した。 福祉避難所に関する進捗状況等については、お便り等では伝わりにくいため、PTA総会にて全体に直接伝えていく必要がある。
		職員と児童生徒は、緊急時および発令・発災・避難所開設時等の対応を理解し、行動できる。	職員と児童生徒は、計画された訓練に参加し、発災時や緊急時に必要な行動をとることができた。	A	訓練を繰り返すことで落ち着いて安全に避難することができるようになってきた。 予告なしの訓練も取り入れながら、より実践的な訓練を行っていく。
専 門	教育的ニーズの的確な把握とそれに応える自立活動の実践	職員が、児童生徒の自立活動の目標と、今もっている力や得意なことを生かした達成方法を、保護者に丁寧に伝えている。	職員は、児童生徒の自立活動の目標と、今もっている力や得意なことを生かした手立てを、面談等で保護者に伝えることができた。	A	面談や懇談会等で、年間の目標やつきたい力等について保護者に伝えることができた。 教員間では、授業研究や12年間のつながり検討会で得られた内容をもとに、年度はじめや学期末等で研修を重ねていく。
	つながりのある支援と指導の充実	12年間のつながりの中で学習の目的・目標について、保護者に伝えている(お便りも含む)。	職員は、授業を行う意義や時期について語り合い、保護者に伝えることができた(お便りも含む)。	A	面談やお便り等で、学習の取組状況等を保護者に伝えることができた。 教員間では、カリキュラムマネジメントの観点で年間学習計画の作成ができるように、12年間のつながり検討会、ミニつながり検討会の充実を図っていく。
		学習場面で、一人一台端末が活用されている。	職員は、端末の効果的な使い方について情報交換をしながら授業を行うことができた。	B	端末や機器を使いながら授業ができた。 機器への対応については、教職員の知識や技量に差があるため全体の基礎知識を高めるとともに、個のニーズに対応していく必要がある。
		児童生徒が、遊びの指導、生活単元学習、作業学習を楽しみにし、願いを叶えようと持てる力を存分に発揮して取り組んでいる。	職員は、児童生徒が持っている力や得意なことを生かして授業に取り組むことができた。	B	面談や懇談会等を通じて、授業の様子や学習状況について説明することができた。 教職員の専門性を高めるための学習会を計画するとともに、学んだことを生かしたり検証したりする力を高めていく必要がある。

連携	自立と輝きに向けた発信と協働の充実	職員と保護者が、学校運営協議会からの具体的な支援を理解している。	職員は、学校が地域の協力を得ながら交流活動や職場実習等の学習に取り組んでいることを掲示板や懇談会、お便り等を通じて保護者に周知することができた。	A	懇談会での説明や掲示物、おたより、ホームページ等を通じて情報を発信することができた。保護者が情報に気付きやすい発信方法を検討する必要がある。また、学校運営協議会については、活動内容等をPTA総会で紹介していく必要がある。
		支援会議後、今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。	学校は、適時支援会議を行い、支援の方針や役割分担について確認しながら対応することができた。	A	適時、支援会議を行うことができた。関係機関と連絡を取り合い、協力を得ながら、様々なケースに対応していく。
	つながりの精選と地域への貢献	本校の様々な交流や活動が、インクルーシブの推進につながっていることを、職員が説明できる。	職員は、インクルーシブの推進につながることを意識して、各種交流活動に取り組むことができた。	B	年間を通じて各種交流に取り組むことができた。教職員一人ひとりが交流の目的や意義を押さえた上で活動に取り組んでいく必要がある。
		各種交流活動に、打ち合わせで伝えた児童生徒の「得意な学び方」が活かされている。	職員は、交流等の活動で、児童生徒の「得意な学び方」を生かせるように準備や支援ができた。	A	交流前の事前打ち合わせで、本校の子どもたちの障害や得意な学び方について伝えることができた。事前の準備や打ち合わせを大切にしながら、活動に取り組んでいく。
		地域貢献や地域資源を活用した学習に、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。	職員は、地域貢献や地域資源を活用した学習において、目的や目標を明確にして取り組むことができた。	A	地域の人材や資源を活用した学習に取り組むことができた。地域にある学校として、児童生徒が学習に取り組んでいる様子を発信したりアピールしたりしていく。
	チーム	誇りとやりがいを持つ職場環境の充実	教職員はチーム力の維持向上に努めている。	職員は、アサーティブな考えをチーム力の維持向上に役立てることができた。	B

様式第3号

誇りとやりがいを持つ職場環境の充実	教職員の時間外勤務時間が上限を下回っている。	職員は、時間外勤務時間の上限を意識しながら勤務することができた。	B	教材研究の時間の確保が不十分であった。 会議資料を事前に提示したり、資料の論点に色を付けたりしながら会議の効率化を図っていくとともに、放課後の運用について段階的に見直す必要がある。
	事務室との連絡相談が迅速に行われている。	職員は、計画的に物品等を購入し、適正に予算執行できた。	A	適正な予算執行ができた。 年度はじめに、事務室から職員に対して物品請求の手続き方法や会計についての説明をしていく。
	本校の取組の良さが外部に発信され、伝わっている。	学校は、教育活動の様子をホームページやインスタグラム(試行)で適時発信することができた。	A	ホームページを提示更新し、学校の取組や授業の様子について発信できた。 インスタグラムについては、試行していることをPTA総会で周知していく。